

## ウイルス不活化試験

### 1 依頼者

株式会社 オーシャン

### 2 検体

ノロックス(調整次亜塩素酸水) 有効塩素濃度 50mg/L(ppm) pH6.0 25℃

### 3 試験目的

検体のインフルエンザウイルスに対する不活化作用を確認する。

### 4 試験概要

検体にインフルエンザウイルスのウイルス液を添加，混合し(以下「作用液」という。)，所定時間後に作用液中のウイルス感染価を測定した。また，あらかじめ予備試験を行い，ウイルス感染価の測定方法について検討した。

### 5 試験結果

#### 1) 予備試験(中和条件の確認)

細胞維持培地で作用液を希釈することにより，検体の影響を受けずにウイルス感染価が測定できることを確認した(表-3 中和条件を参照)。

#### 2) ウイルス感染価の測定

結果を表-1に示した。また，使用細胞及び培地を表-2，試験条件を表-3に示した。